

食のスペシャリスト 栄養教諭による食育出前授業

市には栄養教諭が4人います。栄養教諭とは平成17年にできた資格制度で、学校給食の管理に併せ、児童生徒への食に関する指導やそれらの連携、調整を行う「食」の専門家です。

市では平成27年から、栄養教諭による食育出前授業を実施しています。栄養教諭が学級担任や教科担任、養護教諭などと協力し、学校と連携しながら食に関する指導に取り組んでいます。今回、矢指小で行われた食育出前授業の様子を紹介します。

給食献立を考えよう

6年生の家庭科の授業では「給食の献立に採用されるメニューを作成しよう」という課題で、子どもたちは1食分の献立作成を行いました。作成に当たっては「栄養のバランス」「彩り」「地産地消」「季節感」などに加え「生ものは使わない」「予算の範囲内」といった、給食ならではの規則も考慮する必要があります。献立を作成することは、給食を作る人たちの思いを知り、感謝の心を育むきっかけにもなります。

だし博士になろう

5年生の家庭科の授業では、子どもたちが二つの具がないみそ汁を飲み比べて、五感を働かせながら味や香り

の違いを探りました。

給食用のだしを納入している業者から、かつお節や昆布、煮干しの加工法、だしの取り方の説明を受けました。続かつお節を削る実演や3種類のだしの試飲では、削りたてのかつお節の香りやおいしさに感動の声が上がりました。

授業参観中の保護者にもだしを試飲してもらおうと「家庭でもかつお節を使用してみたい」との感想が聞かれました。



だしについて発表する



だしの試飲

出前授業後は子どもたちの給食の食べ方に変化が表れ、1杯のみそ汁を丁寧に味わったり、残さず食べようとしたりと、食を楽しむ姿が見られました。

食べることは生きる上で不可欠なものです。親子で食を楽しむ体験を積み重ねることで、子どもたちの食に関する正しい知識や望ましい食習慣の定着が期待されます。

今後も市では栄養教諭と協力しながら、子どもたちの心身の健康のため、食育を積極的に推進していきます。

あさひ輝いた人々 第19回

干潟八万石の排水に 執念を燃やした人

いわせ ためきち
岩瀬 為吉 (1881~1948年)



岩瀬為吉は新川の川底の土砂を取り除く浚渫と、干潟八万石低湿地の排水問題や耕地整理に精力的に取り組みました。

明治14(1881)年、岩瀬利右衛門の子として生まれました。岩瀬家は干潟耕地の最大の土地所有者であり、小作人を使い農場を営んでいました。しかし琴田地区や清滝、萬歳の沖は干潟八万石の中でも最もくぼ地にあり、昔から排水に悩まされていました。

明治38(1905)年、39(1906)年に2年連続で水害が起り、岩瀬家の収穫は全くないという状態になってしまいました。明治40(1907)年に千葉県知事へ新川改修の願いを出しましたが、うまくいきませんでした。その

後、新川を浚渫し水はけを良くしたいと思う上流の村々と、水を確保したい下流の村との問題が続いていきます。

政治の力で問題解決を図ろうと、大正8(1919)年に海上、匝瑳、香取の三郡を地盤に愛国農民党を組織し、千葉県議会議員となりました。大正9(1920)年に干潟水害予防組合を立ち上げ、農林省の補助金で新川の改修工事を行いました。

昭和7(1932)年には耕地整理組合をつくり、当座の資金を立て替え、耕地整理を始めました。この耕地整理により、二毛作も可能な美田へと生まれ変わり、大規模な岩瀬農場ができあがりました。

為吉はますます農業に力を入れ、農業経営報や田植えの心得を住民に配ったり、天気予報などの情報を与えたりと、先頭に立って農業指導を行いました。

為吉は個人の利益よりも、自分の住んでいる琴田地区のために生涯をささげた人でした。大正道路脇に顕彰碑が建てられています。



岩瀬為吉顕彰碑